

2024年12月6日

気候変動ウェビナーシリーズ

COP29速報セミナー

次期「国が決定する貢献」 (NDCs3.0) について

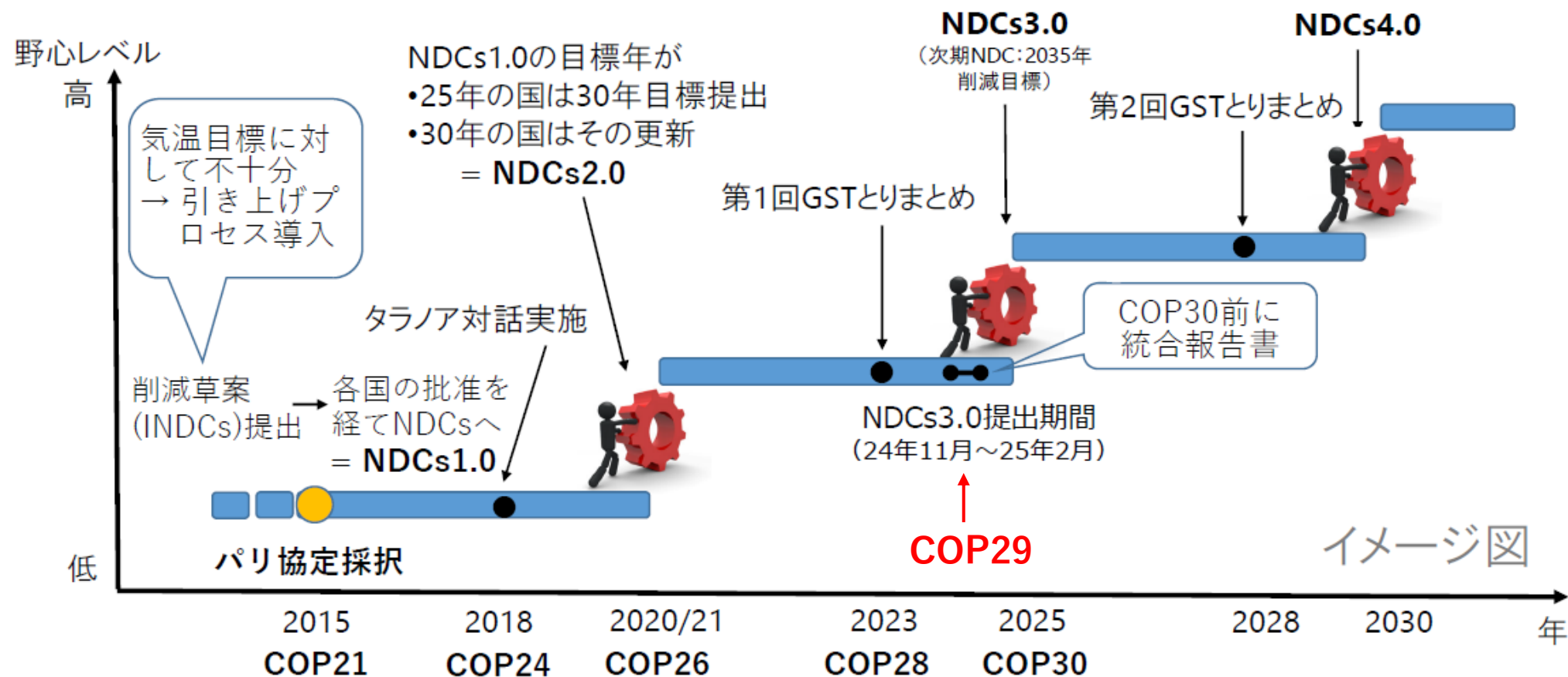
地球環境戦略研究機関

気候変動とエネルギー領域/ディレクター・上席研究員

田村堅太郎

パリ協定：野心引き上げメカニズム（5年ごとの見直しサイクル）

- COP29は、次期NDCs（NDCs3.0）の提出期限（2024年11月～2025年2月）の冒頭に当たった。
- しかし、野心引き上げに向けた呼びかけ、後押しはなされなかった。

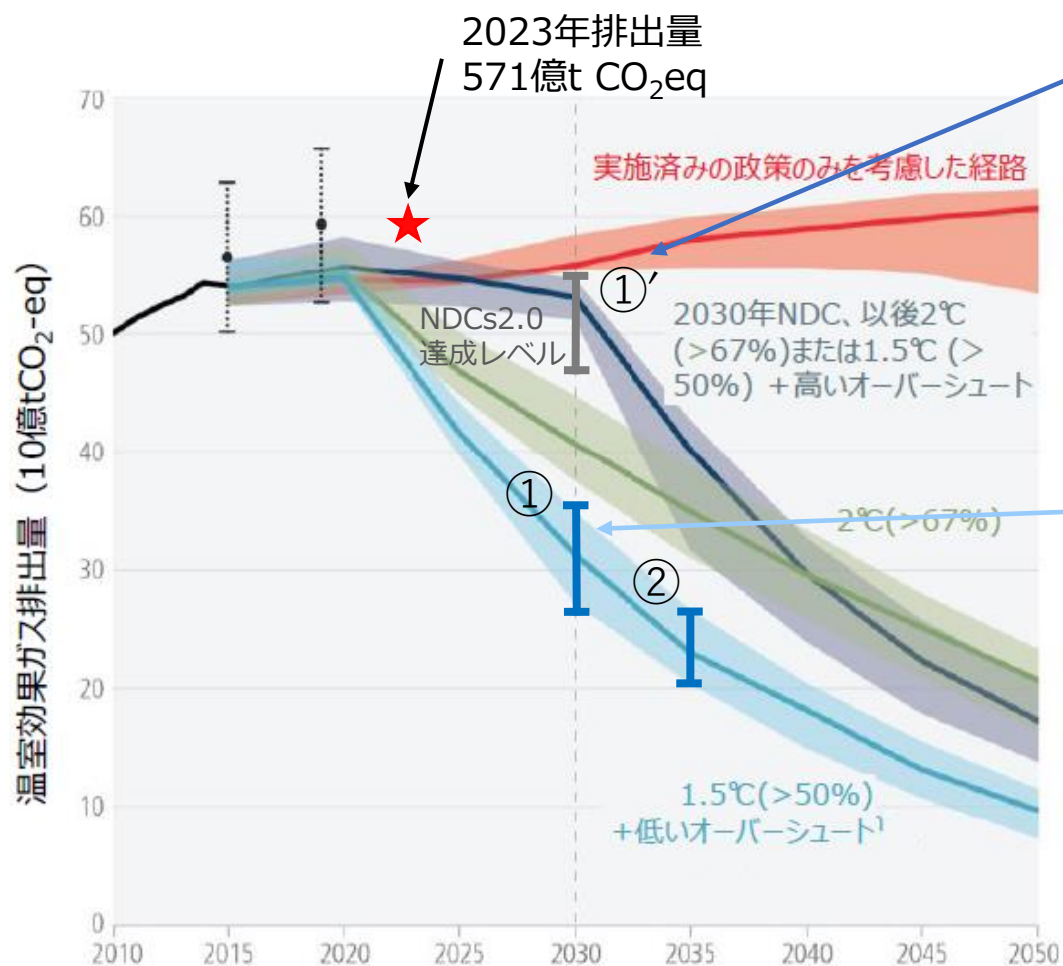


注：COP＝締約国会議（Conference of Parties）。

INDCs＝約束草案（intended Nationally Determined Contributions）COP21（パリ会議）前までに、米中を含む世界CO₂排出量の約9割を占める国々が提出した。

GST＝グローバル・ストックテイク（Global Stocktake）

岐路に立つ1.5℃目標： 2030年、35年までの行動が今後の昇温レベルを左右



① 'NDCs2.0の削減レベルが現状に留まった場合、高いオーバーシュート・シナリオ*に近づく。

- 2030年以降により急速な削減が必要
- より大規模な、大気中からの炭素除去が必要 = 将来世代の負担増大
- 現世代および将来世代がより深刻な温暖化の悪影響リスクにさらされる。ティッピングポイント*を超えるリスクも増える

① 低いオーバーシュート*で1.5℃目標を実現するためには、2030年の削減レベルをNDCs2.0（現行の2030年目標）より下げる必要

- 目標の引き上げ（現時点で、NDCs2.0の目標引き上げの動きはほとんどない）

or

- 目標据え置きでも、超過達成（米国のパリ協定離脱の可能性 ⇔ 中国は目標前倒しでの達成可能性）

② NDCs3.0（2035年目標）の削減レベルは19年比60%減が必要

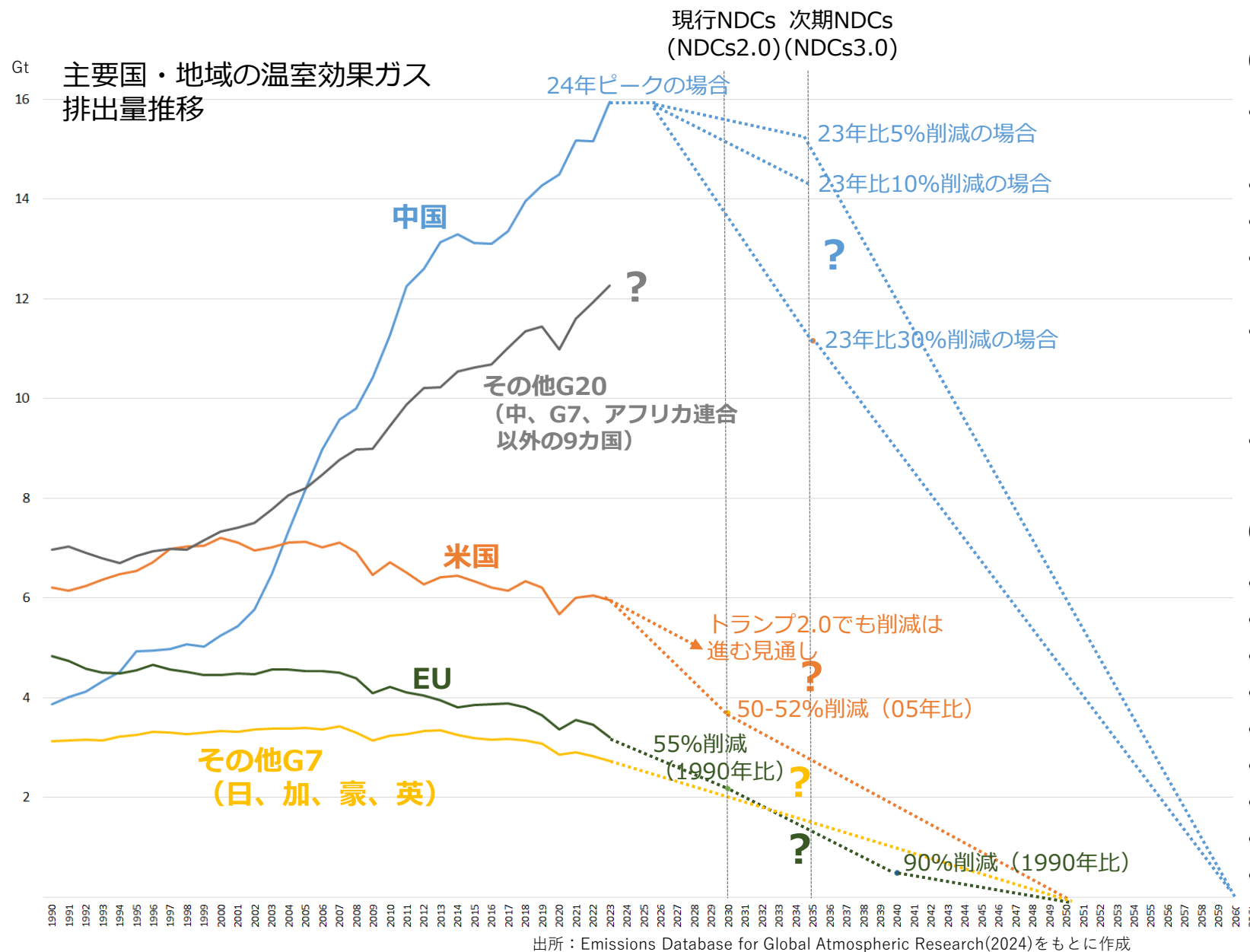
- 2025年2月期限のNDCs3.0がどうなるか？

注：低いオーバーシュート・シナリオ＝一時的に1.5℃を0.1℃以内で超えたのち、2100年までに1.5℃に収まるシナリオ

高いオーバーシュート・シナリオ＝一時的に1.5℃を0.1℃～0.3℃超えたのちに、2100年までに1.5℃に収まるシナリオ

ティッピングポイント＝気候システムに対して大規模かつ不可逆的な影響を与える事象（南極大陸やグリーンランド氷床の大規模な崩落・融解、アマゾン熱帯雨林の喪失など）がおこる転換点

すべての国の取り組み強化による、世界全体でのネットゼロ達成が不可欠 (← ネットゼロにならない限り、温暖化は続いてしまう)



COP29での新たな動き

- ブラジル：NDC3.0（2035年59～67%削減、05年比）を提出
- UAE：2035年47%削減（19年比）を表明
- 英国：2035年81%削減（1990年比）を表明
- メキシコ：2050年ネットゼロ実現を表明
→すべてのG20参加国*がネットゼロ宣言
- 中国：経済全体・全ガス対象のNDC3.0提出を目指す旨を表明（NDC2.0はピーク年、CO2排出原単位目標等）
- インドネシア：2040年石炭火力廃止、ネットゼロ10年前倒し（2050年）を表明@G20

COP30への道のり：政治日程

- 1月20日：次期大統領就任式（米国）
- 2月10日：NDCs3.0提出期限
- 2月23日：ドイツ総選挙
- 5月：豪州総選挙
- 6月：G7（カナダ）
- 7月：日本参院選
- 10月：カナダ総選挙
- 11月：G20（南アフリカ）
- 11月10-21日：COP30（ブラジル・ベレン）

*アフリカ連合は除く

COP30へ向けて

- **NDCs3.0の提出を踏まえて、世界の排出量削減に向けた大胆な行動に移せるか？**
 - ✓ 日本も含めたすべての国が、早期かつ大幅な削減目標の設定と同時に即時的な削減行動に移す必要がある。
 - ✓ これができないと1.5℃目標の達成は非常に難しくなる。
- **アマゾン地域の都市（ベニン）での開催。「Nature COP」との位置づけへ。**
 - ✓ 生物多様性条約（CBD）との連携強化を模索（CBD COP16議長国コロンビア）
 - ✓ CBDプロセスにおける気候変動の扱いに比べ、UNFCCCプロセスにおける生物多様性の扱いが弱い → 統合アプローチの重要性
 - ✓ コロンビアからは、公正かつ持続可能な重要鉱物供給網を構築するための追跡能力向上に向けた国際条約の採択を目指す動きもある